

平素より、保健所の結核対策の推進につきましては、ご協力とご理解を賜りましてありがとうございます。結核は過去の病気ではなく、「現代」の病気です。結核対策をご理解いただき、結核を正しく知ることが、結核対策の第一歩です！身近な人を結核から守るためにこの「結核通信」をご活用ください。

1. 全国・秩父保健所管内の結核患者の状況

国内の結核動向 (H29)

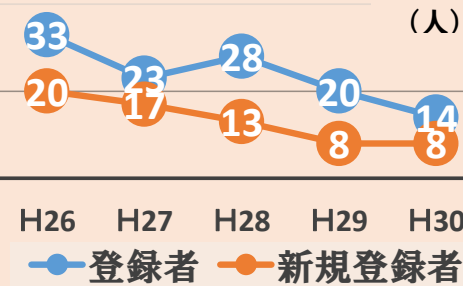
- 新登録結核患者数 **16,789人**
 - 罹患率 (人口10万対) **13.3**
 - 死亡数 (概数) **2303人**
 - 死因順位 **30位**
- ⇒全国で1日に**約50人**の新規結核患者が発生し、**約5人**が結核で命を落としています。

埼玉県の結核動向 (H29)

- 新登録結核患者 **931人**
- 罹患率 (人口10万対) **12.7**

秩父保健所の結核動向と年次推移 (H30)

- 新登録結核患者 **8人**
- 罹患率 (人口10万対) **8.2**



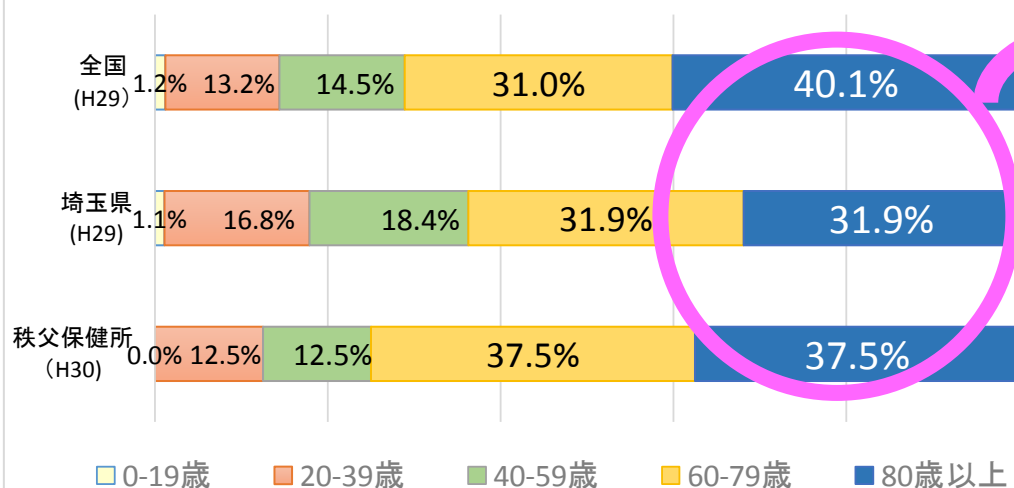
結核は過去の病気ではありません。

結核が日本の死因第1位であった昭和25年から、徐々に結核罹患患者や死亡者数は減少傾向にあります。しかし、今でも全国で1日に約50人の新規結核患者が発生し、約5人が結核で命を落としている日本の重大な感染症なのです。

2. 高齢者に多い結核

近年、結核がかつて国民病であった時代に罹患した方が、潜伏期間を経て、高齢化による免疫力の低下に伴い発症するケースが多くなり、下記のグラフのとおり、平成29年結核新規登録患者の約7割が60歳以上の高齢者です。特に、80歳以上では新規登録患者の約4割を占めています。

活動性結核年齢階級別 (全国・埼玉県・秩父保健所)



高齢者に多い結核
年に1回胸部レントゲン検査を！

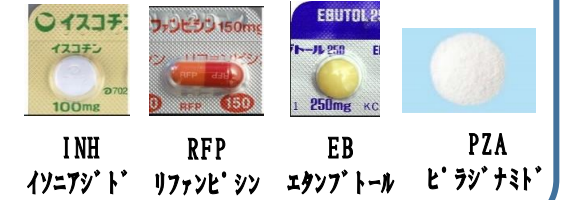
3. 結核は怖い病気ではない！～治療について～

結核と診断されても、医療や生活水準の向上により、6か月間以上毎日きちんと薬を飲むと、完治する時代になりました。

☆ポイント① 複数の殺菌効果がある薬を内服します！

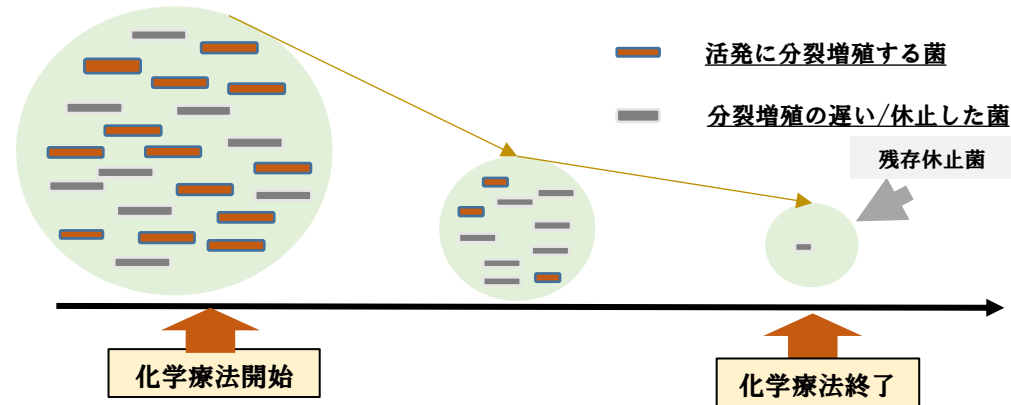
結核の治療では、状況に合わせて3～4種類の薬を内服します。結核の薬を単独で使うと、薬に対して「耐性」ができてしまいます。「耐性」になると、薬が効かなくなってしまいます。それを防ぐために複数の薬を内服します。

代表的な抗結核薬の例



☆ポイント② 6か月（180日）以上、治療終了まで薬を飲み続けます！

薬の効果があるのは、菌が増えるために分裂している時だけです。結核菌の分裂は非常に遅いことや、分裂を休止中の菌もあることから、再発率をできる限り低くする菌量まで殺菌するためには、最低6か月（180日）以上の内服が必要です。結核は決められた期間、きちんと薬を飲むことが大切なのです。

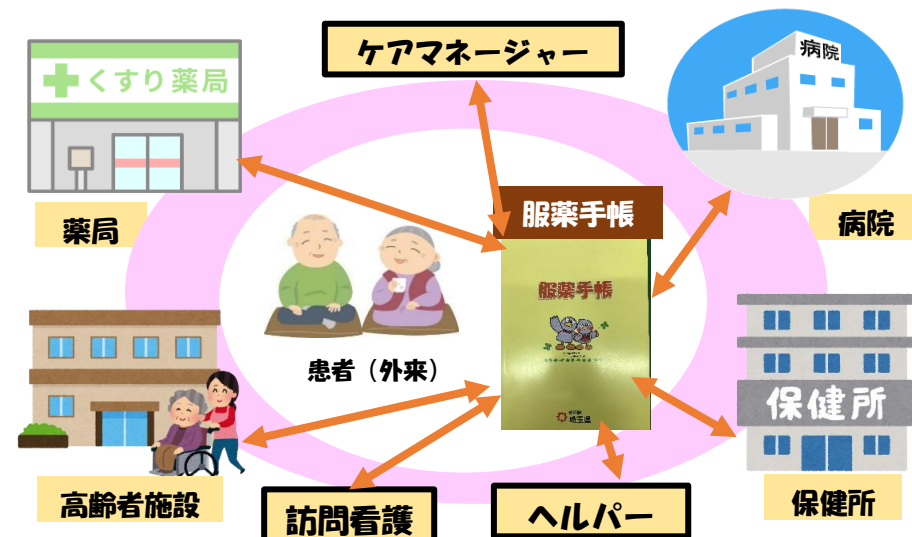


症状がないと誰もが飲み忘れる

薬剤耐性の結核菌を選択的に増殖させることなく生菌を速やかに殺し、半休止菌や休止菌をできるだけ少なくするため長期間（約6～9ヵ月間）に渡り、内服することがとても大切です。症状がなくなっても複数の薬の服薬が必要になります。

4. DOTS (ドッツ) について

治療を確実にするために、医療従事者が確実な服薬を支援するDOTS (ドッツ・直接服薬確認療法) の推進が強化されています。



地域DOTSについて

DOTSの実施等に当たり、保健所では地域の医療機関・薬局等との連携協力の強化・普及を図っています。服薬確認を軸とした患者支援を地域全体で積極的に推進することにより、結核患者の治療完了を目指しています。関係機関と服薬手帳 (埼玉県版) を用いて情報共有を行い、結核患者の生活環境に応じて、チームによる服薬支援を実施します。

5. 結核患者さんの服薬支援してみませんか？

埼玉県では結核患者に対するDOTS業務委託を推進しています。結核患者に対するDOTSに御協力いただける薬局や訪問看護・介護事業所等を募集しています！治療終了まで応援していただける方、ぜひ保健所へお声かけください。